

かわらばん

第7号 2016年2月28日



一票で変える女たちの会 ミニ講座〈女性参政権七〇年を見つめる〉第3回
選挙で変える、一票で変える
〜市民派議員誕生の舞台裏

野村羊子（三鷹市議会議員）・丹羽雅代（相談員）

2015.11.21

政治を「一票で変える」ために、選挙の実際や実態についても知っておきたいもの。まずは身近な問題が取り上げられる地方議会について、組織基盤を持たない市民派議員がどのように選挙戦をたたかって当選しているのか、現在進行形で議員として活躍する人や草の根グループで応援した人に、選挙活動や議員活動について話していただきました。

★伝える方

野村羊子さん 三鷹市議会議員三期目。元福祉関係職。子どもの本屋「プーの森」を運営。

丹羽雅代さん 相談員。市民運動から地方議員を議会に送った経験が多々もつ。

（会場から）辻よし子さん あきる野市議会議員。元教員で自然保護運動を中心に市民活動をしてきた。一五年一〇月補欠選挙で当選。

市民派議員を出す運動に関わってきたわけ

丹羽 私は七〇年代の終わりに東京に転居して、仲間がほしいと、女たちのグループに出かけ、そこでYさんと出会いました。彼女は東村山で市議会議員になろうと思っていました。市民派議員なんてほとんどいなかった時代です。三多摩地域の知り合いになった女性たちに呼び掛けて集まり、そこから核になり関わる人が六、七人出来ました。Yさんは「教育問題を中心にやりたい」と、最初はほんの数人でミニコミ誌を作り家々に配りました。そして七九年の選挙で高位当選しました。当選すると、議員職というのは、いろいろなことをやれることがよく分かりました。

その後も小平や国分寺で女性たちを応援し、高位当選。みなさん四、五期務めて次の人に引き継いでいま

す。次に「頑張る」と言ったのが野村羊子さん。三鷹市議ですが、女の子どもの本屋さんをやっていて、仲間が多くいて基盤がしっかりしていました。三多摩は、あらゆることから二三区内と違い、逆に市民意識を育てなければ、という背景があったと思います。

全国フェミニスト議員連盟（フェミ議連）のこと

野村 九二年にフェミ議連ができました。「ジェンダー視点で語れる女性議員で、様々な問題を変えていこう」と始めた全国組織で、目標は女性議員を増やすこと。全国で二〇〇人の女性議員の会員がいて、首都圏の人を中心に運営していますが、二年交替で、経験のある人と新しい人というように二人を共同代表に選び、各地で合宿をします。

丹羽 やり方は七〇年代とそれほど変わりませんが、認識は確実に変わってきました。みんなでやるのが楽しいということから始まり、政治と台所は直結しているということも実感できて、三多摩は二三区と比

べると格差もあり、市民自治の意識が生まれました。

野村 私は一九八八年に多摩地域に生まれました。今は生活クラブ生協から生まれた生活者ネットの人たちが各自治体に一〜三人おられる。一五〜二〇万人くらいの自治体で議員数が二〇〜三〇人いるような所で、各市で一〜三人くらいのネットの女性議員が入るというルートがある。生活クラブ生協会員という、少しお金を出して安全なものを手に入れようとか、社会に関わりたと思う層がいるということです。だから高位当選するのは、そこに期待する人たちがいることと、女性候補者が少なすぎる結果だと思います。

丹羽 暮らしを扱うのが議会だということですね。子育ての問題など、議会に少しでも橋が架かれれば渡っていけるといテーマが沢山あり、私自身「議員さんがいるということは役立つし、議会に出る意味は大きい」とつくづく感じました。そしてフェミ議連は一年目にベアテさん（日本国憲法二四条起草者のベアテ・シロタ・ゴードン）を呼びました。女性

の生活の問題がきちつと憲法に書かれているのはベアテさんの功績が大きかった、ということのみならず、この頃議員が自治体の男女平等度を調べたり、女性議員を増やすこと、女性議員ゼロの自治体を無くすことに取り組んだ。九五年の選挙で小平のSさんは「雌鶏歌えば国栄える」と言いました。中国の諺の「雌鶏歌えば国滅びる」の逆です。女性が選挙や議会に出ることがどんなに大事かと訴えたのが九〇年代で、みんな頑張りましたが、議会の体質は変わった面もある一方、全然変わらない面もあります。

野村さんの立候補の理由

丹羽 なぜ立候補したのですか。

野村 中島通子弁護士（女性運動に活躍。故人）に「あんた出ない？」と言われたのがきっかけです。なぜそういう話になったかと言うと、私はセクハラの電話相談をやり、セクハラ裁判の支援活動をしていました。地元で男女平等条例を作る動きが出た時、私案を作ろうという会に参加しました。市の平等条例検討会

に委員を送り、毎回傍聴し、いいものを出させましたが、バックラッシュを受け、できた条例には、提案したことが全部なくなりました。男女平等だけは残りましたが。

丹羽 ベアテ・ゴードンさんの話とそっくりですね。

野村 そうです。「差別はいけません」とか「審議会や専門相談員を作る」という基本的なラインはあっても、それ以外は全く無いような中身で条例が作られた。市の職員は「こうでない」と議会が通らないのです」と言うので、中島さんは「やはり議員が必要よ」となって、私が自営業だからいい、ということになりました。私は二〇〇三年三鷹市長選を手伝い、その人は落選しましたが、次のことを考え「三鷹の街のことを考える会」を作ることになり、私が連絡先になっていました。そして市内のいろいろな所で、いろいろな問題を見聞きしていたので、中島さんから二〇〇七年の市議選挙への立候補を打診された時、「今だったら三鷹のことが少し分かっているかも」と思ったのです。

丹羽 最初の頃は、主は本屋で従が

議員という意識でした？

野村 今も私の生業は本屋です。議員は、役割を担っています。職業ではありません。役目とその働きに対して報酬をもらっているだけで給料ではない。しかし今、議員はほとんど専業です。それくらいの気持でないといけないので、私は夜中に本屋の仕事をやります。政治家は市民に沿っていない、というイメージがありますが、私は地に足をつけていたので、フェミ議連の先輩たちと出会って、「こういう議員もいるんだ」と分かってやりやすくなりました。

丹羽 Sさんを議員に出す時に、彼女は人形劇団をやっていたので、どうしようかと思いましたが、先輩に合わせればいいと思いつき、三多摩市民派の大先輩井上スズさん、山崎達さんに会うよう勧めました。すると「こういう人が議員なのだ」と納得しました。議員のイメージが実物と会うことで変わるのを目の当たりにして、私は「本当に良かった」と思いました。野村さんの時はフェミ議連の人が大勢いましたね。



Standing up: Japanese suffragettes at a meeting in Tokyo in 1928

野村 たまたま荒川区議のSKさんと知り合い、SKさんはフェミ議連の共同代表で、「今度総会やるからいらつしやいよ」と言われて、行きました。その時SKさんが「お金もらって市民運動が出来るから、いいのよ」と言い、私は「そうか!」と思いました。

人とのつながり、学びの場の作り方

野村 保守系の人にはフィールドが町内会、JAといろいろあるけれども、私のベースは市民運動だから、SK

さんの言葉に励まされました。それでいろいろな運動を、私が言い出しつべになり、でも表には出ないようにして続けています。「さよなら原発!三鷹アクション」は、パレードをしています。発端は私ともうひとりです。「あなたがやるならやるよ」と私はいつも言います。また、ゴミ有料化の時に作った「ゴミ有料化、納得できない!三鷹市民の会」が休止していたのを、数人で動かし、土壌放射能測定もやりました。新たに「三鷹子どもの本・九条の会」などいろいろな市民運動を立ち上げ支えます。コーディネートが私は好きなのだと思います。みたか発電という市民発電も、共同出資してソーラーパネルを付けようと動いて、私立学校の屋根に付けさせてもらうことができました。

お金の準備と仲間作り

丹羽 選挙の最初のお金はどうしましたか?

野村 選挙の時に作るチラシは、全戸配布します。カラー印刷も安くありませんでしたが、三鷹は八万世帯、八万

枚の印刷費だけかなりかかりました。配布はボランティアを募り六〇人くらい動いてもらいました。全戸配布八万枚を二回作り、WEBサイトを立ち上げ、事務所を借りるのもお金がかかります。市民派の場合、

いろいろな人が出入りできるスペースが必要です。保守系の人、公示直前に自宅等に事務所を開きますが、私は二か月くらい前に借りるので、事務所の家賃は結構かかり、計三〇〇万円くらい。半年前からのカ

ンパで一〇〇万円余頂ぎ、あとは親から借りました。親族に頼れない人は一五〇〜二〇〇万円です。やりくりし、ひたすら人手をかき集めてやります。

丹羽 八万戸に配ろうと思ったら、六〇人ですか。

野村 場所によります。三鷹の場合はマンションが多いけれど、戸建ての場合は大体一時間で二〇〇〜三〇〇戸です。あきる野はもっと大変ですね。

丹羽 そういう背景や、本屋さんの他にいろいろな運動に関わってきたというベースがあつて、六〇人のボ

ランティアで、なんとかやつてくることができたのですね。

うまくいったこと、失敗したこと

丹羽 うまくいったことは?

野村 うまくいったのはイメージを作ること。最初WEBサイトを立ち上げる時に、一応プロに頼んでイメージを作ってもらい、最初に作ったイメージを踏襲しています。

丹羽 イメージカラーは緑ですね。

野村 そこは変えない。今でも街宣に立つときには緑のものを身に着けます。写真は自分じゃないような出来ですが、逆に良かった。「野村羊子をよろしく」と言う時に、私でない何か違うものを「よろしく」と言うような気分になりました。自分の名前を連呼するなんて普通ないので、大変です。

丹羽 上手くいかなかったなと思うことは何ですか?

野村 忘れてます。

丹羽 それも大事なことです。失敗は忘れて、いいことの記憶を重ねていけるのは。

議会での効果、市民への効果

丹羽 議会にあなたがいることの意味、影響力は？

野村 一つは、男女平等のことを言い続けているので、それを意識する議員や職員はいます。三鷹市議会には、少し前までは女性を擁護する人もいたそうです。今はいせんが、男女平等に関することを意識的に質問で取り上げると、「それはちょっと問題ですね」と、気にする議員もいます。市の職員にも「これはどうなっているの」とたずねたり、「資料を出して」と頼むので、私が勉強していることは分かっているかなと思います。議員が見ていると、やはり職員も意識すると思います。

丹羽 議員の後ろには約三、〇〇〇名市民がいるということですね。そういうのが見えやすい活動の仕方なのか？ 自民党議員の後ろには人ではなく組織、という印象です。

野村 でもいろいろな意味であちらの方が強い。人によるけれど、やはり市民にとっては一つの情報源ですね。私は道路問題に最初から関わっています。それは市民グループがあつてのことです。議会でも外環道特別委員会を作っていて、そこに職員から情報提供がされます。「委員会です。これは市民に説明した」とと市職員が言うので、「今日の委員会です。こういうことがありました」と、資料を流してみんなに伝えます。逆に私も市民から得た情報を使って委員会で質問します。例えば外環は七つの市区が関わっているの、他の自治体で起きたことを、「こういう事故がありました。情報提供して下さい」と言います。委員会で発言したことは公式の会議録に残ります。

丹羽 相乗効果がいろいろ現れる感じですね。人とのつながりは、やはり運動を通しての人とのつながり。最初のYさんの時は子どもの親同士というつながりでした。

いま困っていること 世代交代

野村 ママ友みたいな感じ？
丹羽 そうそう。少しずつ教育を語り始めた。野村さんの場合は、本屋さんで役立った。
丹羽 今困っていることは？
野村 やはり世代交代したい。コアメンバーが一〇年変わらず一緒にやっているの。
丹羽 サポートする方の？
野村 私自身も。今、会派と一緒にやっている人が団塊の世代なので、「この人、次やるのか？ やらないのか？」と思います。また、三鷹では自民党を落とせるような人が出ていません。自民党約一〇人という構成を変えるには世代交代が必要です。

野村 天職かどうかわかりませんが面白いです。私は自分が好奇心旺盛だなと思います。行政がやることは幅広いけれど、どれも面白い。財政も細かい数字を重ねて考えます。福祉関係、女性問題、道路や街造り、産業も関わります。何でも疑問をも

丹羽 支援する側も世代交代が必要になりますね。

野村 四期、五期やる人は、実働できる支援者を発掘しないと展望がありません。

丹羽 若い人をリクルートしようとしているのですか？

野村 これも苦戦しています。明日、明後日、憲法カフェをやりま。新しく「プーの森」に小さいお子さんを連れてくる方とは直接話ができないので、話をしたい。

楽しみながら運動が広がる

丹羽 どこでも世代交代が大きな課題ですが、基本的には天職だと思っ

野村 天職かどうかわかりませんが面白いです。私は自分が好奇心旺盛だなと思います。行政がやることは幅広いけれど、どれも面白い。財政も細かい数字を重ねて考えます。福祉関係、女性問題、道路や街造り、産業も関わります。何でも疑問をも

ち、情報を「こんなことがあるんだつて」と市民に伝えると、耳を傾けてもらえて手応えがあります。

丹羽 足場がちゃんとしていると思われる。

野村 それはある種の権力性ですから、自覚せねばと思っています。

あきる野市の状況、辻よし子議員誕生までとその後

丹羽 辻さんはあきる野市の選挙で当選されました。同じ三多摩でも大分違いますか。野村さんの話を聞かれてどう思いましたか？

辻 はじめまして。あきる野市は二〇年前に五日市町と秋川が合併してできた市で、面積は七三八平方キロと広く、人口約八万人。五日市の奥は山が多く、チラシ配りも一時間で十数軒しかできない場所もあります。

お話を聞いて全然違うと思ったのは、私は恥ずかしながらフェミニズムの運動に強い問題意識を持っているたわけではなく三・一一を経験して



「政治を何とかしなきゃ」と思い始めました。ただ、学生時代から自然保護運動はしてきましたし、教員時代も「管理的な学校教育がおかしい」と思い、管理職とぶつかってばかりいて、結局四年で辞めました。その後、タイの農村に入って農村教師との交流活動を行いました。その意味では、今のマジョリティへの違和感はずっとあり、社会の問題を考えってきました。ただ、政治の世界に入ることは全く考えておらず、政治家は、やりたくない職業でした。それが変わったのは、環境問題に取り組み、行政にも働きかけましたが、限界を感じていたのと、「外野でやっているからいい」という甘えが三・一一でノックアウトされたからです。

野村さんの話では、どこの自治体でも生活者ネットが一〜三人いたというのですが、あきる野はゼロ、

草の根市議もゼロです。三・一一が起きた時に学校給食の放射能測定を求める陳情を出すために議員に会いましたが、「何？」というような議員ばかり。放射能に対する問題意識が低く「広島で原爆が落ちて、その後一本も木が生えないと言ったけど、復興したからね」と平気で言ったのが民主党議員です。「やはり自分たちの中から市議を出さねば」と強く思いました。私は自分が議員になろうと思ったわけではなく、「市民の中からみんなで出そうよ」と、市内の友人・知人に呼びかけの手紙を書きました。そして、集まった仲間一〇人で二〇一一年一月に市政を考える会を立ち上げました。選挙

に関してはみんな素人で、多摩地域の草の根の市議さんを講師に勉強会を開き一から学びました。最終的に誰が選挙に出るか……となったときに「出てもいい」という人がいなくて結局「言い出しつぺだから」と私が出ることになりました。それが二〇一三年。かけたお金は七〇万円。「当選すれば議員報酬の中から返金します。落ちたらごめんなさい」という「応援債」を買ってもらってやりました。三・一一があつたにもか

かわらず投票率が上がらず、結局、ものを言うのは地縁・血縁の組織票ですね。中には自治会館を選挙事務所に使っても平気な候補者もいました。

丹羽 え？ 半分公的施設なのに？

辻 そうです。平気でやっています。町内会の人たちが集まって炊き出しもします。私は名前も何も知られていない。二、〇〇〇枚出せる公選の葉書も五〇〇〜六〇〇枚出すのがやっとでした（普通二、〇〇〇枚以上書いて、選んで二、〇〇〇枚出す）。結局、一〇〇票差の次点に終わりました。地元で選挙を知る人から、無名で出るとせいぜい八〇〇票くらいなのに一、〇〇〇票余は「よく取れたね」と言われましたが。

しかし、落選後からすぐに、仲間と共に街頭演説を再開しました。「議員でなくても市民として議会の外野から出来ることはある。集会には関心のある人しか来ないけれども、街頭ならみんな聞いてくれるし、ピラを配ることで話ができる」と。

そうした中、先月補欠選挙がありました。補選では草の根は通らない

と言われ、「やめよう」という人もいましたが、二年間ビラを配ったので共感してくれている人もいるかも知れない。その人が投票しようと思っても投票先が無いというのは失礼じゃないか、と思い、私は仲間「選択肢の一つとしてやりましょう」と言って立候補しました。蓋を開けてみたら、共産党も、民主党も候補者を出さず、二俣のところは三人が立候補。それで当選しました。一〇、〇〇〇票余で（自民党の最大会派から出た人は二二、〇〇〇票くらい）、一〇、〇〇〇人余の人が辻よし子と書いてくれた、やってよかったです、と思います。

「市民参加」が通じない

辻 私は一回目出た時から市民参加の政治を訴えています、市民参加の政治というのが全く通じない人が大勢いて、「投票したら議員に任せとおけばいい」と。「議員は市民の手足になって、お年寄りが『住民票を取りに行けない』と言ったら取って来たり、『ここに街灯が必要だ』と言えばそれをする、それが議員。市民参加って何？」と言われました。

さらに二年間で感じたのは、議会があまりに酷いということ。例えば、私たちが出した陳情に対して、中身は審議されず不採択になりました。それは私たちが通信の中で議会を批判したから。「陳情の審議中に議会の批判をするとは何事か」と。こんな議会では市民の人に「議会に関心を持つてほしい」とは言えないと思います、補選では「議会に風穴を」「今の安倍政治みたいなことが、足元から起きています」と、訴えました。

議会の現状

辻 覚悟して議会に入りましたが、市民の感覚で「おかしいですね」と言うのと、多くの議員は「何言っているの」という顔をします。今は一つ一つ引つかかりながらやっています、この引つかかりは失いたくない、議会にどつぶりつかかるのは止めようと思っっています。私は市民運動に軸足を置き、あくまで普通の市民感覚をもち、ある意味、身構えて議会に行きます。二〇一三年に民主党の若い議員が入った時、「頑張ってくれるかな」と思いましたが、彼は「僕も最初は議会を変えようと思っ

たけれど、議員は皆さん頑張っていて民主的だ。それが市民に伝わっていないだけと分かりました」と言いました。私は「あのようになりたくない」と思います。

丹羽 三五年前、最初の市民派議員を出そうと思った時の空気とよく似ています。でも面白いことがいろいろ出てきそうな気がします。ありがとうございます。

会場とのやりとり

― 議会に風穴？ 少数会派のこと

参加者 辻さんが議会で最初に驚いたというのはどんなことだったのですか？

辻 例えば、議案が議会で話し合われますが、本会議の「円滑な」進行のために事前に賛否を把握しておく、そう、会議は形式的です。

野村 基本的には政党ごとに会派を組み、その中で賛成か反対かを決めます。議案審議をする時には、私も基本的には討論まで書いて用意して

出ますが、委員会だと、行政とのやり取りで少し書き換えることもあります。

辻 賛否を出すよう二日前に言われ、私は一人会派だし、討論を聞いて決めたい、新人で分からない議案もあるので「当日まで出せません」と言いました。多くの議員は「こんな質問は初めてだ」と言いましたが、最終的に、「保留」という項目が新たに付け加えられました。

野村 良かったね。言ってみるものですね。

辻 それからあきる野市は二〇一五年七月に議会基本条例を作り、その中に一人でも会派を作れるという条文を入れました。それで会派代表者会議に私も出られると思っっていました、申し合わせ事項で、会議に出られるのは二人以上の会派で、会派に属さない者は入れない、とあります。「議会基本条例に基づき一人会派でも入れるようにして下さい」と言ったところ、「会派代表者会議は各会派から一人ずつだ。九人いる会派でも一人だ。一人会派からも一人

では不平等だ。それは民主主義ではない」と言われました。

野村 最大会派はそう言いますね。三鷹市でも。

丹羽 国会もそうです。今五人の社民党が四人になったら政党要件を満たさないといつて、政党として扱われなくなる。全部平等に扱おうと、不平等だと言うんですね。

野村 代表者会議は全会一致でやるところが多い。もう一つ、交渉会派というのがあつて、三鷹では三人以上ないと交渉会派ではないと。私も二人の会派なので、議会運営委員会に出られませんし、代表者会議の傍聴もできません。先例集に書いてあると、変えるのが非常に難しい。一般質問は議員全員の権利なのに、会派の大きさで時間を制限しています。周りの市民も「おかしい」と言うことが必要です。

参加者 市民の側から「おかしいじゃないか」というのは、力になりますか？

野村 上手く連動すればね。三鷹は、自治基本条例を作る市民の会が、「議会改革を」と請願を出していますが通らない。議会改革の講演会等をやつても、議員と上手く連動しきれないのでも、もつたないと思います。

議会傍聴を

参加者 国会の無茶苦茶な政治を正すには、地方の足元からやらないといけないと思います。民主主義や平等が全然違う意味で使われることに驚きました。議会を傍聴しましょう。

野村 去年、都議会で野次が話題になりましたが、一般の人が「企業ではあり得ない」と言うのに、都議会で何が起こっているか明らかにしようとする、いじめられます。それをさせないためには市民が傍聴に行くことだと思います。

辻 こんなこともありました。「ヘイトスピーチ禁止の法整備を」という意見書を政府に挙げて下さい、と陳情した時、その審議で二人の議員

が「勉強不足なので、ここで結論を出せない」と言い継続審議になりました。そこで、ヘイトスピーチの被害者である在日韓国人の声を是非聞いて下さいと、丁寧なお手紙を審議する委員会の議員全員に送り「会って頂けませんか」と電話しました。ところが、これが「扇動」にあたりと言われ、「扇動」という言葉が入った議長名の文書が届き、びつくりしました。こういう感覚を持った議員を一人で説得するのは無理ですから、こうした事実をまずは市民に知らせ、少しでも見識のある議員と一緒に議会を変えていけないかなと思います。ただ、市民の多くの関心事は街灯設置とか、日常的な問題の解決かもしれません。私が最初に選挙に出た時も、若いお母さんで応援してくれる人が周りの人に「辻さんをよろしく」と言ったら、「この人、何をしてくれる人？」という反応がきたそうです。

野村 「子育てのこと一緒に考えてくれるのよ」というようなことしか言いようがない。私も、公明党の議員が最初に覚えた庁内の電話番号が道路課だと聞いて驚きました。「あ

その街灯が切れています」と言うのですが、私は「それは市民が言ってもできることなのに、議員がわざわざ言うの？」と思いました。市民が直接言えることは市民が言つて、市民の声が通じることを実感して頂いた方がいいのだから、「ここに電話すれば大丈夫です」と情報提供すればいいはずですよ。

女性議員を増やそう

参加者 女性議員を増やそうという運動は長くなりますが、成果は？

野村 女性ゼロ議会を無くそうと続けています。先日ようやく県議会で女性ゼロが無くなりましたが、市町村ではまだあります。市川房枝記念会の方が作った女性議員の一覧表や内閣府のホームページを閲覧下さい。(参議院：http://www.geocities.jp/senkyo_power/data/member_san.html 衆議院：http://www.geocities.jp/senkyo_power/data/member_shu.html)

会場 フェミニスト議連が地方で合

宿をするようですが、具体的には、その地域の誰かを発掘するのですか。

野村 フェミ議連のサマーセミナーは全国大会的な意味合いで、三〇〇〜四〇〇人の女性議員が全国から集まることは地元の刺激になります。一方で、議員同士で、情報共有、情報交換することは大事です。議員同士の仲間がいることで議会の中で一人でも頑張れることになるので、フェミ議連があちこち行つてつながるのも大事です。一月のパワーアップ講座では、住宅政策とマイナンバーと派遣法を考えます。ホームページを見て下さい。二〇一六年参院選も、野党統一候補は女性にしてほしいと思つています。近くJG83(女性議員八三人を倍にするキャンペーン)が立ち上がります。一二月に女性議員候補を推薦し、その候補を野党統一候補に、と計画しています。呼びかけ人には、女性と人権ネットワーク、女性暴力禁止法ネットワーク、全国女性シエルトーネット、学者等が名前を連ねています。

丹羽 やれる人はこんなにいるというのを見せようというのが、リス

ト化ですね。地方選挙も、やれる人がいるということを見せていくことが大事だと思います。

野村 東京も市民派候補を出そうと話し合いを重ねています。「あすわか」(明日の自由を守る若手弁護士(の会)の太田啓子弁護士は神奈川だけど話したら固辞された。どうしたら出てもらえるか、と考えます。

参加者 太田さんは幼い子供が二人いて、弁護士の仕事があるから、周りで短期間でもサポートしてやれるような体制を作らないと。

野村 ぜひ形を作つてやつて下さい。神奈川から彼女が出てくれたら、一人が決意したと分かると、どんどん広がります。「いいね。その人」
と思える人、何とか東京でも。

その他、マイナンバー制度ほか

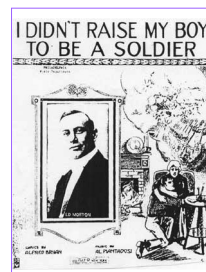
参加者 議会は常識とのギャップが大きいですが、二人共笑い飛ばす精神をお持ちだからやつていけるのかなと思います。

野村 怒つていますが、私一人であろうこう出来る問題でもないとも思います。諦めとの折り合いをつけて、全体の中でどうやりくりするか。例えば「ダイバーシティ(多様性)」という言葉も、私が最初に議会で使いましたが、翌年に公明党が使い、その後、市で使っています。私が提起した観点が行政で生きることが大事で、自分がやったということよりも、その方向に動いたことがいいと思います。

参加者 マイナンバー制が疑問で講演を聞きに行きました。練馬区で出しているパンフレット資料を「参考までに」と配っていましたが、「皆さん登録しましょう」となっていました。三鷹市でも、賛成パンフレットを作るのでしょうか。

野村 賛成パンフレットは総務省で定型を作っています。三鷹議会では個人番号カードは「任意ですね」と確認し続けています。市長は「通知番号カードは大切に取つておいて下さい」で終わっています。私の新しいニュースには、「申請せず、通知番号カードだけで十分です」と書き

ました。よかつたら三鷹と一緒に勉強会をしましょう。



『一票で変える女たちの会』かわらばん ネットやメールを利用されない方には印刷版をお届けしています。ネットでご覧になる方も、ぜひ印刷してご友人・知人の方に紹介してください。

★投稿大歓迎!

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。(一本について二〇〇字〜二六〇〇字)

宛先: 1pyodekaeru@gmail.com

郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックスNo.45

FAX: 03-5684-1412